

【ポスター発表】

地域における学習支援のありかたについて
—キャリア支援を視野に入れた学習支援の効果と課題—

○ 植草学園大学 宮下 裕一 (02903)

宮武 正明 (こども教育宝仙大学・06485)、田谷 幸子 (東洋大学大学院・07045)

キーワード：学習支援、キャリア支援・地域における子ども支援

1. 研究目的

地域における学習支援は、貧困の連鎖・貧困の再生産を防止するという視点とともに、生活困難家庭の子どもの勉学意欲を向上させる効果をもち、高校受験および進学を後押ししている。本研究メンバーも千葉県 A 市において 2009 年 10 月から地元市と連携して学習支援を実施し、現在は中学生・高校生を中心に生活保護世帯の子どもの学習支援の場を設けている。この活動は、高校進学および学業継続には大きな効果を上げ、初年度からの参加者は高校卒業をし、一定の成果を上げている。しかし、高校時に彼らが語り始めた問題や環境への支援、キャリア支援は十分な状況ではなく、彼らの人生を支援する段階には至っていない。貧困の連鎖・貧困の再生産を防止する視点だけでなく、彼らが人生の選択をしていくためのキャリア形成という視点からこれまでの支援における成果と課題を中間報告し、地域における子ども支援に必要とされる環境整備について検討する。

2. 研究の視点および方法

子どもたちが人生の選択をしていくためのキャリア支援という視点に立ち、地域における学習支援に求められる課題について検討する。毎回の学習支援活動において作成する記録をもとに、参加状況、学習状況、子どもから寄せられた相談や子どもの状況の変化を分析する。また、A市生活支援課を通して高校卒業者に学習支援に参加しての感想を聞くインタビューを実施しており、インタビュー記録から当事者の求める支援について検討を行う。

3. 倫理的配慮

学習支援活動記録およびインタビュー実施にはA市地域支援課の承諾を得て実施している。さらに、インタビュー実施前には本人および保護者に書面にてインタビューの趣旨を説明し、同意書に署名をいただいている。インタビュー実施時に再度口頭にて趣旨及び守秘義務、データの取り扱い方法等について説明し同意を得てから実施している。

本報告においては子ども達の意見を紹介するが、個人を特定できる報告は行わない。また、数値は、自治体より許可をえた調査報告書によるものを使用する。

4. 研究結果

学習支援に参加する動機としては、「勉強する場所がほしい」、「勉強がわかるようになりたい」、「(高校)受験に合格したい」という理由が多く、勉強や受験のための場所の必要性がある。学習支援に参加することでの変化については、「勉強する場所ができた」、「勉強がわかるようになった」、「勉強のやり方がわかるようになった」という意見が多くみられ、動機への対応および学習支援の場としての成果は上がっている。学習支援への参加によって自覚的に受験勉強を始めるケースもあり、学校での学習姿勢が明らかに変化し、全体として学習環境が整っていったケースもある。しかし、実際に学習成績と結びついていないケースも少なくない。学習意欲への効果はあるが、成績への効果が十分でなく、連動させるためには学習方法、学習期間、開催頻度などの検討が求められる。

キャリア支援としては、高校生を中心に職業についての情報提供や職業体験、アルバイトの相談、就職活動をしている大学生ボランティアとの職業選択についての意見交換などを実施し、参加者からは参加することで進路に関する示唆を得たい、何らかの学びを得たいという姿勢が見られた。また、当事者から将来の自分へのイメージづくりやモデルづくりに役立ったとの意見が出ており、当事者からの要望や意見から、キャリア支援の企画立案、実施することに有効性があると考えられる。しかし、「将来への進路や夢が見つかった」と言える状況には至っておらず、高校卒業を控えた高校生が進路に悩むケースが多くみられた。特に、進学したいと思いつつも就職の選択しかないケースの場合、就職への意識付けが難しいだけでなく、就職活動に前向きになれず焦りだけが募ってしまうことがあった。また、就職へのイメージづくりができたケースにおいても、イメージの範囲が狭く、関係職種への就職であっても本人のイメージと異なる点への違和感から早期離職となるケースもあった。将来への自分のイメージづくりだけでなく、イメージを拡大させたり、許容範囲を広げたり、またイメージと異なっている場合でも自分の目指す方向へのキャリアパスと位置づけられる支援が求められる。

5. 考察

地域における学習支援を開始した当初から、子どもたちが自らの環境に左右されながらも自分の人生を納得しながら歩いていくための支援を念頭に置いて支援を展開してきた。キャリア形成のための高校進学および卒業についてはある一定の効果をだしているが、キャリアパス支援については効果が出ていない。学習支援の場は、学習およびキャリア形成の場というだけでなく、子どもにとっては自らの困難を発信し受け止めてもらえる場ともなっているため、中学時代、高校時代だけでなく高校卒業後も立ち寄って自分について相談できる場として機能することにより、子どもたちが自分自身を確認し、現状を理解し受け止めることで、長期的視野に立ったキャリア形成、人生形成を可能とすることにつながると考える。